

一般質問通告書



令和5年11月24日

伊達市議会議長様

伊達市議会議員 吉野英雄

(会派名 無会派)

第4回伊達市議会定例会において下記のとおり一般質問をしたいので、伊達市議会会議規則第62条の規定により、質問の通告をいたします。

No. 1

提出方法	受付月日	令和5年11月24日	受付順位	6
(持参) 電子メール	受付時刻	13時 35分	質問順位	6

第4回定例会にあたり、教育をめぐる3つの課題及び福祉灯油についてお聞きします。

1、小中学生の不登校問題の伊達市での実態について

小中学校での児童生徒の不登校問題について、長いコロナ禍が明け、通常の学業に戻りつつある中で、全国ではあらためてこの問題がクローズアップされていると聞きます。

全国の2022年度の不登校の児童生徒数は29万9048人と報告されており、10年連続で増加し、5年前と比べてほぼ倍増と言われています。

この要因として、①コロナ禍の影響で不安に揺れる子どもたちの状況があり、②「生きづらさの低年齢化」があると言われています。フリースクール寺子屋方丈舎（福島県）の代表である江川和也氏は、「生きづらさは中高生以降の問題と思われているが、小学生でも人間関係や学校生活の中での生きづらさを感じる子が増えている」があると言われています。

伊達市の不登校児童生徒の現状と課題、また教育委員会、学校の対応について伺います。

2、道教育委員会の総休業日数の延長への対応について

道教育委員会は、道立高校、特別支援学校の夏休みを延長できるよう、冬休みと合わせた総休業日数の合計を現行の「50日以内」から「56日以内」に延長する方針決め、11月22日の教育委員会会議に諮ったと言われています。これは、今年夏の猛暑を受けての判断と言われています。道教育委員会の規則改定、市町村の判断の目安となっているわけですが、伊達市教育委員会としてはどの様に判断されるのか伺います。

3、小学校における事故の検証結果とそれに基づいた学校現場の意思疎通の構築について
暑さ指数計の配置やエアコン設置方針が既に示されていることで、確かに対策は取られて
きていると考えます。しかし、夏を過ぎた今こそ、対応策についてじっくり腰を据えて
考えていくべきと考えます。

学校現場での具体的な対応策をどうするのか、どうしていくべきなのかについて、教育
委員会と校長をはじめとする学校現場との意思疎通、学校内での意思疎通をどう図ってい
くのかが、市民にはまだ見えていないと思うところです。

検証結果に基づいた、学校現場での意思疎通をどの様に構築していくべきか、対応策に
ついて伺います。

4、冬場の福祉灯油について

政府は、物価高騰から住民の暮らしを守る観点から、2023年度補正予算に「地方創生
臨時交付金」を増額し、5000億円を追加しました。灯油補助など原油価格高騰対策が盛
り込まれ、困難な状況にある者をしっかり支えるとの観点から対策が打たれないと承知
しております。福祉灯油などの対策について伺います。